

【「ヨッ！ こうちょう」】



この言葉を聞いて、「おいおい」と思う方も多いかもしれません。確かに私も、少しご機嫌斜めな時には(うん?)といぶかしげになってしまうこともあります。しかし、そうでない時には「**おう!**」と応えるようにしています。そうすると、続けて「**こうちょう, ぜっこうちよう**」と返してくれます。

昨今、呼び捨てはいかがなものかとか、あだなはどうかと議論がなされます。**さすがに「こうちょう」はまず**

**い?**と、私自身も思いながら。では、**なぜ, このように呼びたくなるのか?**

考えてみることにしました。

確かに、私に校長としての威厳みたいなものは欠けているので、もしかしたら、からかい半分の気持ちも無きにしもあらず。しかし、このように呼びかける時の子どもたちの表情は**たいがい笑顔**でありまして、この「こうちょう」と言う呼び捨てに、あまり悪意が感じられないのです。むしろ、どこか親しみを感じてこのように呼んでくれているのではないかとさえ思えます。

今まで、上からものを言い続けた自分が、やっとこ、子どもの居る場へ足を踏み入れることが、少しできるようになったのかもしれない。

そして、私の頭の片隅に「せんせい けらいなれ」(灰谷健次郎)の詩がいくつか浮かび、「やっと、子どもにとって、けらいにならなくていい存在になれたのかな」なんて思う自分もいるのでありました。

テレビコマーシャルで、ある会社の職場で、新入社員が上司に向かって「山田!お電話です」と呼びかける。居合わせた先輩社員が呆気にとられるという内容のCMがあります。

今回の私の状況と似ていますね。敬語の誤用がテーマです。

私自身、もちろん敬語を正しく使うことを覚えて欲しい、その願いはあります。なので、いつかは「これはまずいでしょ」と、自分自身で気づいてくれる、それを切に願いながら・・・「ヨッ! こうちょう」の呼びかけに、なんて応えたらいいのかを模索し続けているのです。

.....

ふりかえってみるに、このまなざしを始めてから、丸2年になりますが、なんか少しずつ方向性がぶれてしまったような(はじめは、心揺れた場面を切り取って紹介するというコンセプトでした)。しかし、なかなか学校にいられず、子どもとの接触が自ずと少なくなってしまったことを言い訳に、少し説教じみた内容が多くなってしまったなあと、私の感性の鈍りを痛感しています(+o+)

早いもので、令和5年度の最後を飾る「卒業証書授与式」まで、あと数日。そして、年度末をむかえ、今回の「校長のまなざし」が、今年度最後となります。今年度もお付き合いいただき本当にありがとうございました。

来年度はどうなることやら…わかりません(\*\_\*)

